自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	星のさと全体の共通理念「一人一人に一人一人の介護を」をスタッフ全員で共有している。その理念に沿い一人ひとりをよく観察し一人ひとりを尊重して支援するよう心がけている。	ホームの理念は入居者家族や住民等に説明し公開もしている。毎月のミーティングでは日々のケアを振り返り、理念に沿うものであったのかどうか話し合いながら共有と実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃から隣のりんご畑の方と挨拶をしたり、サツマイモの苗の植え方を教えてもらうこともある。地域の住民の方が週1回ホームに来て交流している。又、地域の行事である「芸能祭、お神楽」や星のさとの行事である「星のさと祭り」などでも交流している。	事業所や地域の行事以外にも日常的にボランティアや近隣住民との交流に取り組んでいる。入居者が安心し本人らしく暮らし続けられるように地域との関りを積極的に進めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は毎年地域包括支援センター星のさとから依頼を受け「介護予防教室」等で認知症の理解やケアのポイントの講師を行っている。又、適宜、相談に見えた方等に対してアドバイス等を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、入居者の状況や生活の様子などの報告、ケアの事例発表、交流を目的としたｸﾘｽﾏｽ会などを行っている。 そこでの意見やアドバイスはスタッフに伝えて日々のサービスに活かせるように話し合っている。秋の消防訓練では、一緒に参加して頂く予定でいる。	運営推進会議メンバーは毎回積極的に参加し意見、要望を伝えている。ホームとしても会議を通して地域との関わり深めたり、サービスの質の向上に繋げたいと意欲的に取り組んでいる。	運営推進会議メンバーの協力を得ながら順次回数を増やされていくことを望みます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通して、現況や活動内容を報告している。 地域包括支援センター星のさとには日頃から情報を伝えるなど協力関係も築けている。 毎年、長野市の集団指導に出席している。	何かあれば市窓口に直接出向き相談している。担当者とは気軽に相談できており協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	隣接老健と合同の内部研修やスタッフミーティングなどで身体拘束について学び、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。玄関は日中は施錠をせず、自由に出入りができる。	身体的拘束その他入居者の行動を制限する行為や高齢者の権利擁護に関する勉強会が定期的に開かれている。職員は拘束や制限のない自由な生活の提供に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	隣接老健と合同の内部研修やスタッフミーティングなどで高齢者虐待防止について学び、虐待は絶対にあってはならないものと認識している。入浴時などは特に全身の観察をよく行い、小さな内出血でも報告しあっている。資料もホームにあり、いつでも閲覧できるようになっている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	隣接老健と合同の内部研修やスタッフミーティングなどで日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、資料もホームに置いてあり、いつでも閲覧できるようになっている。尚、実際に成年後見制度を利用している入居者もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時などは、面談を行い、書面と口頭で説明を行っている。又、入居前にホームや居室の雰囲気をよく感じて頂き、契約内容と合わせて不明なこと・不安な点などを聞いて、理解・納得を頂くように対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に1回あんしん相談員が訪問して入居者の方と話をしながら意見や要望を聞いて頂いている。 又、ホームに意見箱を設けてあり、意見や要望をいつでも書いて頂けるようにしている。 入居者や家族とは日頃からｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝを図り、気軽に意見や要望が言えるような関係・雰囲気づくりを心がけている。 頂いた意見や要望はスタッフ全員で把握し対応できるように、話し合ったり代表者に伝えて業務や運営に反映させている。	一人ひとりの生活状況票を毎月作成し家族に報告している。また、面会時には職員から積極的に話しかけるなどして話しやすい雰囲気作りに努めている。家族や入居者との会話から意見、要望を汲み取り運営に反映させている。意見箱は設置されているが活用されたことはなく、家族等は気になることなどがあれば直接職員に伝えている。家族会はないが行事がある度に家族等に声をかけており、行事によっては大勢の参加が得られている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフミーティングや隣接老健との合同職員会議などでスタッフの意見や提案を聞く機会を定期的に設けており、業務や運営に反映させている。	職員が意見や考えを話す会議が毎月設けられており活発な話し合いが行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	永年勤務された方や仕事に対する努力、実績が代表者に認められると＋αの評価がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修会に参加し、全体に報告している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームの見学を受け入れたり、長野圏域のグループホームが2ヶ月に1度集まり、情報交換や研修会（勉強会）等を行う善光寺平グループホームねっとに参加している。そこでの内容などをスタッフ皆に伝え、日々の業務やケアに活かしている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、アセスメントした情報や関係事業所からの情報をスタッフ全員で把握し、ホームでの生活に慣れ安心して生活できるように心がけている。入居当初は特にかかわりを多く持ち、話をしたり、表情を観察しながらｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝを図っている。入居者同士の関係にも気を配っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の面談の中で、不安なことや要望を聞く機会を設けている。又、見学時や荷物搬入時にスタッフは挨拶をしたり、ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝを図りながら家族が不安なことや要望を話すことが出来る雰囲気づくり、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談をしながら、どのようなサービスがいいのかを一緒に考えている。既に利用している事業所や担当ケアマネージャーとも連携を図っている。又、相談を受ける段階から話や思いをよく聞くように努め、柔軟に対応できるよう心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃から支えあう関係や一人ひとりの思い、できる力・わかる能力、心地良い感情を大切にし、人生の大先輩として尊敬しながら大家族のような雰囲気で生活できるように努めている。スタッフは、あえて知らないふりや出来ないふりをし、お互いに助け合って生活している場面をつくることもある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族が一緒に過ごす時間や大切な存在である想いを大切にしながら、面会時はあたたかく迎えている。日頃の様子を伝えたり、行事に一緒に参加して頂いたり、本人の誕生日を家族と一緒に祝ったりして、共に一緒に本人を支えていく姿勢を心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後家族は無論、友人がホームに尋ねてきて下さった際、暖かく歓迎し心地良く過ごして頂けるよう配慮している。又、自宅への外出泊、家族と行きつけの美容院や自宅近隣に1年のご挨拶にでかけたり、なじみのカレーを食べに出かけることもあり、適宜に必要な支援をしている。	「一人一人に一人一人の介護を」の理念の実践に取り組んでいる。一人ひとりの生活習慣を大切にしつつ支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃から入居者同士の関係をよく観察し、ホールでの席の位置を工夫している。一緒に家事参加をしたり、車椅子の方を押してもらって散歩したりと支えあいながら生活をする関係作りに心がけている。 又、別ユニットに入居している方同士が互いの居室を訪ねて一緒に過ごすこともある。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もいつでも気軽に立ち寄って欲しい旨を伝えたり、ホームで生活していた様子の写真をアルバムにして差し上げている。他の場所へ移り住む場合には、関係者と連携を図り、情報提供をしながら住み替えのダメージが少ないように配慮している。 又、手紙などを送ったケースもあった。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一緒に暮らしながら常に本人の思いや意向は何かを把握することを心がけ、本人本位の暮らしの視点がずれないようケアすることを心がけている。又、居室担当ごとにセンター方式のアセスメントを活用し、 日々かかわりながら望む暮らし・思いの把握に努めている。	入居者一人ひとりの思いや希望は日々関わりながら言葉で確認している。確認が難しい場合には日頃の様子や個別情報等を参考にしながらその人が望んでいる暮らしになるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談では、生活歴や今までの暮らし方、サービス利用の経過などを本人・家族・関係事業者から話を聞いて情報を得ている。入居後も生活の所々で昔の話題などをふりながら本人や家族から話を聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日をどのように過ごすか本人の意思決定を日頃から大切にし、できる力やわかる能力が発揮できるように支援している。スタッフは毎日の申し送り内容を把握し、本人の顔色やバイタルチェック等での健康状態も配慮しながら生活の支援をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを定期的に開催しながら、本人の意向・家族の意向をふまえてスタッフ皆で生活の支援を考えている。時には隣接老健の総師長やPTなどにも意見を求め、介護計画を作成している。	入居者一人ひとりがその人らしく暮し続けられる支援の実現のためにセンター方式を導入し皆で話し合いながら介護計画を作成している。評価見直しも定期的に行ない現状に沿ったものになるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のカルテに日々の生活の様子やケアの実践した内容などを記入している。スタッフは必要な情報を毎日の申し送りで共有しながら、ケアの実践に取り組んでいる。見直しの際もカルテの内容を参考に話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて隣接老健のPTにアドバイスをもらったり、リハビリテーションを行っている。訪問マッサージを利用している方もいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方が、毎週大正琴の演奏に来て下さり、入居者やスタッフと一緒に歌や会話を楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は本人・家族の希望で決めている。スタッフは日頃から主治医に情報を提供し連携を図っている。内服薬などに変更があった場合は必ず家族等に報告している。	週一回医師のホーム訪問があり、入居者と話しながら一人ひとりの健康状態を診ている。入居者によっては定期的に受診している。必要があれば往診もある。入居者の健康状態は毎月の生活状況票で家族等に連絡しているが、それ以外にも異常などあれば電話にて連絡相談している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員として看護師が勤務しており、日頃の生活の中で、小さな傷や内出血等、症状や気付いたこと、又、日々の健康状態を報告し、スタッフ間の連携を密にしていることで適切な受診・処置などが受けることができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、サマリを提供している。又、入院中の様子や経過などを定期的に聞いたり、お見舞いに行き、情報の交換を行っている。協力病院とは地域連携室を通して日頃から連携を図るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前の契約時に重度化及び看取りに関する指針をもとに家族に説明している。又、必要に応じて家族との面談を繰り返し、本人・家族の意向を尊重しながら、主治医と連携を図り、スタッフ全員で取り組む姿勢でいる。	重度化や終末期のあり方について事業所の方針が明確に示されている。看取りに関する職員教育も定期的に行われている。今までにホームで最期を迎えた方はいないが意向があれば家族と共に本人にとって穏やかな最期が迎えられる支援を提供したいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	隣接老健との合同の内部研修やスタッフミーティングで実践方法などを学んだことはあるが、定期的に訓練を行うには至らず更に実践力のUPに取り組んで行きたい。又、ホームにマニュアルや資料があり、いつでも閲覧できるようになっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を行っている。地域との消防協定も結んでいる。スタッフミーティングや運営推進会議でも避難方法について話し合っている。	隣設の老人保健施設と合同で昼・夜を想定した防災訓練を定期的に実施している。この秋にはホーム単独で消防署の指導の下、地域住民の協力を得ながら実践的な訓練を行う予定である。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合った言葉かけを心がけている。排泄時などはプライバシーや羞恥心に配慮し、さりげなく介助する等対応している。会話の内容によっては居室で話をしたり、のれんでプライバシーが保護されるよう対応している。	個人の尊重、個人情報の保護等に関する職員教育が毎年行われている。日々のケアの中で好ましくない対応があればその場で話し注意を促すなど誇りやプライバシーを損ねない接遇に全員で取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話しながらや生活の所々で思いや希望が表せるよう意識して接している。本人のできる力やわかる能力を活かしながら、難しい自己決定ではなく、選択方式で希望が表せるように洋服を一緒に選んだり、飲みたいものや食べたいものが食べられるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフ本位の生活をしないよう心がけている。居室で過ごしたり、散歩に出かけたり、編み物やオルガンを弾いたり、スタッフと一緒に過ごしたりなど本人の意思と自己決定を尊重し、自由に生活できるよう支援している。本人の生活のリズムを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの好む洋服や身だしなみができるように、化粧、色の好み、着方の好みなどを把握して支援している。居室で自由に洋服が選べたり、いつでも手鏡をみて髪型を整えることができるように一人ひとりに合わせて工夫している。家族が本人の好みの髪型に散髪している方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を切ったり、味付けをしたり、調理したりと一人ひとりのできることや得意なことを把握しながら一緒に食事を作ったり片づけをしている。食事はスタッフと3食一緒に食べながら、美味しく食べることができるように会話したり、見守りや介助を行っている。	食事が楽しいものになるよう職員は一人ひとりの力量に合わせながら食事の一連の作業を入居者と一緒に行っている。食事中は出来栄えを褒めあったり、昔の料理が話題になったりと和やかな雰囲気であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは隣接老健の管理栄養士がたてた献立を使用しており、バランスが摂れている。食べる量や水分量を毎日把握している。水分確保のために好む飲み物を用意したり、水分が摂れる時間帯を把握して支援している。きざみ食やミキサー食など本人の状態にあった形態の食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりに合った口腔ケアの支援をしている。ｽﾎﾟﾝｼﾞｶﾞｰｾﾞや歯間ﾌﾞﾗｼなどの口腔ケア用品も個別に合ったものを使用している。又、協力歯科医院の歯科衛生士に関わってもらっている入居者もおり、口腔ケアや口腔体操などのアドバイスを受け、日々の口腔ケアに活かしている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、日頃の観察から、排泄介助の時間やおむつ類の使用を検討して支援している。できる力やわかる能力を常に大切にしながら、気持ちよくスムーズに排泄できるよう工夫している。日中布パンツで過ごす事ができるようになった方もいる。	排泄チェック表を基に個別の排泄支援を行ない、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた取り組みが積極的に行われている。夜間の排泄支援に関しては一人ひとりの睡眠状況にも配慮しながら行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く摂り、状態に合った形態の食事提供や適量な水分摂取も促している。歌を唄ったり歩行や体操などの運動も取り入れている。個別に応じてトイレに座る習慣も大切にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	スケジュールで入浴日を決めているが、その時々の希望に応じて入浴時間や入浴日を変更して対応している。又、湯加減や入浴方法の好みなど個別に対応できるよう心がけている。	安心して気持ちよく入浴できるよう一人ひとりに合わせた声がけや対応に心がけている。夏場は入浴日以外でもシャワー浴が行われている。身体状態をみながらユニット間で浴室を借り本人が安心して入浴できるよう工夫している。また隣接老健の大浴場を借りて温泉気分を楽しむこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの様子をよく観察し、眠そうにしている時や疲れていそうな時などはゆっくり休息できるように支援したり、シーツ交換や布団を干すなど気持ちよく眠れるように配慮している。本人の好みや状態に合わせて、電気敷布や湯たんぽなどを使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬や用法、用量は個別カルテに記載してあり把握できるようになっている。薬が変更になった時などには申し送り内容に加え、スタッフ全員が把握できるようにしているが、全スタッフが薬の効能・副作用までは把握できていない部分がある。服薬は本人の力量に合わせた支援をしている。症状の変化は常に観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	スタッフは一人ひとりの生活歴を把握し、どんな時にいい表情をしているか観察しながら生活の中で好むこと、得意なこと、楽しいことができる場面をつくるように心がけている。（家事参加の役割や手芸、読書、家族との時間や蚕の話、ケンタをなでたり、おやきを作ったりなど。）		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外に出たい時は、その行動を止めることなく出かけられるよう支援している。（ホーム周辺の花摘みをしたり、日光浴に出かけたりなど。）毎月の外出行事は日頃から入居者の希望などを聞いて計画し、ご家族にも案内をして一緒に参加してもらい外出に出かけている。なじみのレストランに行くなど外出の個別ケアも行っている。又、お盆やお正月に自宅に帰れるよう介護のアドバイスをするなどの支援も行っている。	気分転換や五感刺激として日常的に外気に触れる機会を設けている。毎月外出行事を計画し四季折々の自然を眺めたり、イチゴ狩りや善光寺参りなど積極的に出かけている。歩行困難な入居者も毎回一緒に出掛けている。個別外出も積極的に支援している。家族の協力を得ながら、住み慣れた自宅に帰ることも実施している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力量に応じてお金を所持し、買い物で好きなお菓子を買ったり、外出行事の時などお土産を買ったりできるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人と手紙やハガキのやり取りをしている方もおり、継続できるようポストへの投函などを支援している。又、希望があればいつでも電話ができるように支援している。本人に贈り物が届いた時などにはお礼の電話をかける支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のスペースには季節の花や雛人形、鏡餅など季節のお飾りを飾っている。毎日食事をつくる音や食事のにおいなど生活感も感じられる。カーテンやのれんを使用し、心地よい光や風が入ってくる。温度・湿度計で室温を調整している。又、中庭があり、季節の採光を感じられるようになっている。	四季折々の花やお飾りを飾るなどして家庭的な雰囲気をかもしだすよう工夫している。坪庭からの自然な光が家の中を明るく照らしている。廊下や食堂は車椅子が行き来できる広さが充分にある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	所々に椅子が置いてあり、自由に座って外を眺めたり、好きに過ごせるよう工夫している。外の景色を眺めながら会話を楽しんだり、犬を見て笑顔で話している姿が見受けられる。和室にはソファーがあったり、冬にはコタツも作り皆で寄り添ってお昼寝をしたり、くつろいだりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や愛用品、趣味のものなどを家族に持ってきてもらっている。家族の写真、タンス、鏡台、テレビ、本、手芸品、絵はがきセット、オルガン、愛用の布団などが居室にあり、少しでも居心地よく過ごせるよう支援している。	自宅で使用した家具や家族の写真など一人ひとりの馴染みの物や愛用品が持ち込まれており、本人が居心地良く安心して過ごせるようにと居室づくりに工夫がこらされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーになっている。居室の物品の配置を工夫するなど、本人の状態に合わせてできる力やわかる能力を大切に支援できるよう工夫している。茶碗、箸、湯のみ、のれんなどは個別のものを使用して、自分の物や居室がわかるように工夫している。		